

【恵那市】 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果

1 全国学力・学習状況調査について

- (1) 目的 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析したことを、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、子どもたちに21世紀を生き向くための「確かな学力」を身に付けさせることを目的に国が実施
- (2) 実施日 平成30年4月17日(火)
- (3) 調査対象 小学校6年生 中学校3年生
- (4) 調査内容
 - ① 教科に関する調査(国語、算数、数学、理科〈3年に1回〉)
 - ・主として「知識」に関する問題(A)
 - ・主として「活用」に関する問題(B)
 - ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

2 恵那市全体の傾向

(1) 教科に関する調査より

【小学校】

- ・国語A(主として「知識」に関する問題)は、全国や県の平均正答率とほぼ同じ。
- ・国語B(主として「活用」に関する問題)は、全国や県の平均正答率をやや下回っている。
- ・算数は、A、B共に、全国や県の平均正答率をやや下回っている。
- ・理科は、全国や県の平均正答率をやや上回っている。

◆国語では、内容の中心を明確にして書く、意図を捉えながら自分の意見と比べて考えまとめることが弱い。質問の意図を捉えることや、文章の内容を的確に押さえ考えながら読むことはよくできている。

◆算数では、小数、円周率の理解、グラフの読み取り、解釈などに弱さが見られる。

◆理科では、実験結果を基にした分析や記述に弱さが見られたが、自然事象についての知識、理解は身に付いている。

【中学校】

- ・国語A(主として「知識」に関する問題)は、全国や県の平均正答率とほぼ同じ。
- ・国語B(主として「活用」に関する問題)は、全国や県の平均正答率とほぼ同じ。
- ・数学A(主として「知識」に関する問題)は、全国や県の平均正答率を下回っている。
- ・数学B(主として「活用」に関する問題)は、全国や県の平均正答率を下回っている。
- ・理科では、全国や県の平均正答率とほぼ同じ。

◆国語では、「話す・聞く」の領域はよく理解できている。内容を整理して書く、文章とグラフとの関係を考えながら捉えることに弱さが見られる。

◆数学では、数学的な見方や考え方に弱さが見られる。

◆理科では、科学的・生物学的な領域はよく理解できている。地学的な領域に弱さが見られる。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査より

【小中学校】

- ・「朝食」や「就寝時刻」、「起床時刻」など学習を支える規則正しい生活習慣が身に付いている児童生徒が多く、家庭と連携した生活習慣づくりが大切にされている。
- ・地域の行事に参加している児童生徒は、全国に比べて多く、地域のボランティア活動にも参加し、地域で活躍し、地域の中で温かく見守られ育てられている。
- ・小学校では、自分にはよいところがあると思っている児童が全国より低い、中学校では、自分にはよいところがあると思っている児童が全国より高い。先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思っている児童生徒が全国より多く、学校の中で一人一人を大切にして、自己肯定感を育むことが大切にされている。

今後も、こうした市の状況を受け、児童生徒一人一人に寄り添い、日々の学校生活を充実させ、子どもたちに確かな学力を身に付けさせるよう取り組んでいく。